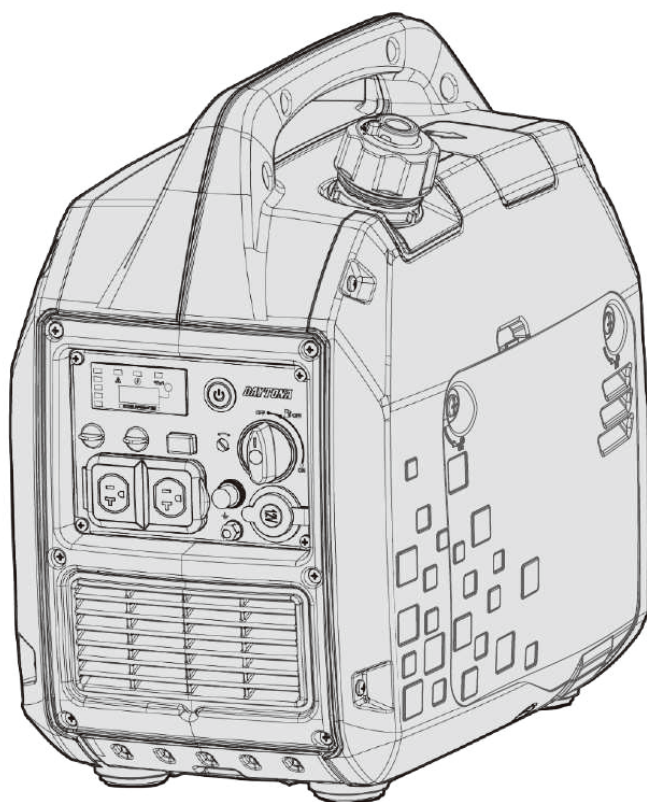


DAYGENE
セルスター 1900e

【品番:55004】
【品番:29965】

DAYTONA[®]

静音型インバーター発電機 取扱説明書



- このたびはデイトナ静音型インバーター発電機をお買い求め頂き誠にありがとうございます。
- ご使用になる前に必ずお読み頂き、内容をよく理解して正しくお使いください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。
- この商品を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せて必ずお渡しください。
- 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。
- 商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行っております。
保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

【 目 次 】

1. 安全にお使いいただくために	P.3
2. 使用可能範囲	P.5
3. 開梱と同梱品リスト	P.6
4. 各部の名称と取り扱い	P.7
5. 運転操作	P.11
▪ 運転前に	
▪ エンジンの始動	
▪ 電源の取り出し方	
▪ エンジンの停止	
▪ マルチディスプレイについて	
6. 点検・保守・保管	P.18
▪ ①. 始業点検	
▪ ②. 保守（定期点検）	
▪ ③. エンジンオイルの交換	
▪ ④. 点火プラグの点検と調整	
▪ ⑤. キャブレター残燃料排出	
▪ ⑥. エアフィルターの清掃	
▪ ⑦. 保管（一時保管・長期格納）	
7. 故障診断	P.25
▪ エンジンがかからない	
▪ 電気が出していない	
8. 製品諸元表	P.26
9. 製品回路図	P.27
10. パーツリスト	P.29
11. リコイルスターターによる始動 補足説明	P.36

1. 安全にお使いいただくために

■ ご使用前に必ずご確認ください ■

※取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。

※商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行ってまいります。保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に保管してください。

※本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠警告 要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注意 要件を満たさずに使用すると、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。



実施

行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



禁止

禁止の行為であることを告げるものです。



高温注意

表記の注意を告げるものです。



火気厳禁

表記の注意を告げるものです。



警告



禁止

- ✓ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所で行わないでください。ガソリンは非常に燃えやすく、爆発や火災の危険があります。給油はエンジンを停止させてから行ってください。万一燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取って乾かしてからエンジンを始動してください。また、給油中は十分に火気に注意して行ってください。
- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や室内など閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用中、使用後のマフラー部は非常に熱くなっております。マフラー高温時には、マフラーに触れないでください。火傷をしたり衣服を焦がしたりする危険があります。また、高温の時は絶対にガソリンや引火性のあるワックスやクリーナー、塗料などのケミカル製品をマフラー等に垂らしたり吹き付けたりしないでください。火傷や本機の損傷、火災の原因となります。
- ✓ 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。本機に接続された電気機器が故障、火災や人身事故の原因となります。
- ✓ 箱を被せたり、周囲を囲ったり、上に物を乗せて使用しないでください。
- ✓ 濡れた手での操作、金属物をコンセントに差し込んだりしないでください。感電の恐れがあります。
- ✓ 運転中の点検整備、部品を改造したり、部品を外したまま使用しないでください。感電やけがの恐れがあります。
- ✓ 使用可能な場所かをご確認の上、使用ください。キャンプ場、イベント会場等では使用禁止のルールがありますので予めご確認の上ご使用ください。
- ✓ 本機に子供やペットが触れないようにし、安全な場所で運転してください。

⚠️ 注意

【火災のおそれあり】

- ✓ 発電機を使用する前に周囲にある危険物(油脂類、火薬など)や燃えやすいもの(紙くず、わら、枯れ草等の可燃物)を除去してから使用してください。
- ✓ 定格出力を超えた状態(過負荷)での使用はしないでください。
- ✓ 屋内配線に接続しないでください
- ✓ マフラー-高温時にカバー等を掛けしないでください。

【感電やけがのおそれあり】

- ✓ 傾斜させての運転、運転中の本機移動、濡れた手で操作、金属物をコンセントに差し込んだり、しないでください。
- ✓ 熱くなっているマフラーやエンジン各部を触らないでください。やけどや怪我の原因になります。
- ✓ 運転中でのプラグコード、プラグキャップや点火プラグは絶対に触らないでください。
- ✓ 運転中の点検整備、部品を改造したり、部品を外したまま使用しないでください。
- ✓ 子供には絶対に使用させないでください。
- ✓ DC12V はバッテリー充電以外に使用しないでください。
- ✓ 雨や雪の中での、使用はしないでください。電装部品の事故やショートが起きる原因となります。また湿気や凍結により、使用時に感電する原因となります。
- ✓ 取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをしたり、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因になります。



実施

【故障のおそれあり】

- ✓ 使用するガソリンは必ずレギュラーガソリンを、規定容量を守ってご使用ください。混合ガソリンは使用できません。
- ✓ 補修部品、消耗品(エンジンオイル、点火プラグ)等は必ず推奨品をご使用ください。



法令違反

- ✓ 燃料を補給する場合には消防法に基づいた容器から行ってください。
- ✓ エンジンオイルを交換後、廃油は地面や排水溝などに捨てずに、環境保護のため法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルを購入されたお店にご相談ください。
- ✓ 本機を廃棄される際は、環境保護のためお買い上げになったお店や、お住まいの自治体へご相談ください。



その他

- ✓ 毎回使用前には、始業点検の実施、また定期点検も必ず行ってください。
- ✓ 本機を自動車等で運搬する場合は、しっかりと固定し倒れないようにし運搬してください。
- ✓ 使用中に異音、臭い、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- ✓ この商品は、予告なしに価格や仕様の変更をする場合があります。また、本文中で紹介した商品についても同様です。あらかじめご了承ください。

2. 使用可能範囲（この発電機で使える範囲）

■ ご使用前に必ずご確認ください ■

※ ご使用前に、使用する電気器具の消費電力(W)をお確かめの上ご使用ください。

※ 再度、使用したい電気機器の消費電力と起動電力を確認します。電気機器によっては、始動時に消費電力よりも大きい電気を必要(消費電力の3~4倍もの電力が必要)となることもありますので、ご注意ください。

- ▶ 【消費電力】〇〇〇W(ワット) → その電気機器が消費する電気のことです。
- ▶ 【起動電力】〇〇〇W(ワット) → その電気機器の始動時のみに必要とする電気のことです。
- ▶ 消費電力【1000W】 = 定格出力【1kVA】 ※この発電機の定格出力は、**1.9kVA**です。

⚠ 警告



禁止

✓ 発電機の使用可能範囲を超えると、発電機とそれに接続されている電気機器類が損傷します。

電気機器	消費電力(W)	起動電力(W) ※参考値	消費電力に 対する倍率
液晶テレビ(27インチ)	80	100	約 1.3 倍
ノートパソコン	20	20	約 1 倍
扇風機(家庭用)	50	100	約 2 倍
炊飯器(家庭用)	1300	1300	約 1 倍
電気ポット	1000	1000	約 1 倍
小型冷蔵庫(家庭用)	100	400	約 4 倍
大型冷蔵庫(家庭用)	250	1000	約 4 倍
ホットプレート	1300	1300	約 1 倍
コーヒーメーカー	650	650	約 1 倍
電子レンジ	1000	1800	約 1.8 倍
電気ドリル	300	600	約 2 倍
ハロゲンライト	250	500	約 2 倍
電動丸ノコ	600	1200	約 2 倍
水銀灯	400	1600	約 4 倍

⚠ 注意

- ✓ 電動工具等のモーターを使用した機器は、起動電流が非常に大きい機器については、【過負荷警告灯】が表示され使用できない場合があります。
- ✓ 使用する機器の負荷や特性によって発電機出力と合わない場合がございます。
- ✓ 上記が発生した場合、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

3. 開梱と同梱品リスト

■ 開梱 ■

2人以上の成人で、箱から発電機を慎重に取り出し、強固で平らな場所に置いてください。必ず箱の中にある本機と付属品は取り出してください。

全て取り出すまで箱を廃棄しないでください。下記の同梱リストをチェックし全ての部品と付属品が揃っていることを確認してください。

部品が不足または破損している場合は、カスタマーサービス 0120-60-4955 受付時間 10:00～17:00

月曜日～金曜日（弊社指定の休業日、祝祭日を除く）、もしくは info@myfarm-daytona.jpへメールにてお問い合わせください。

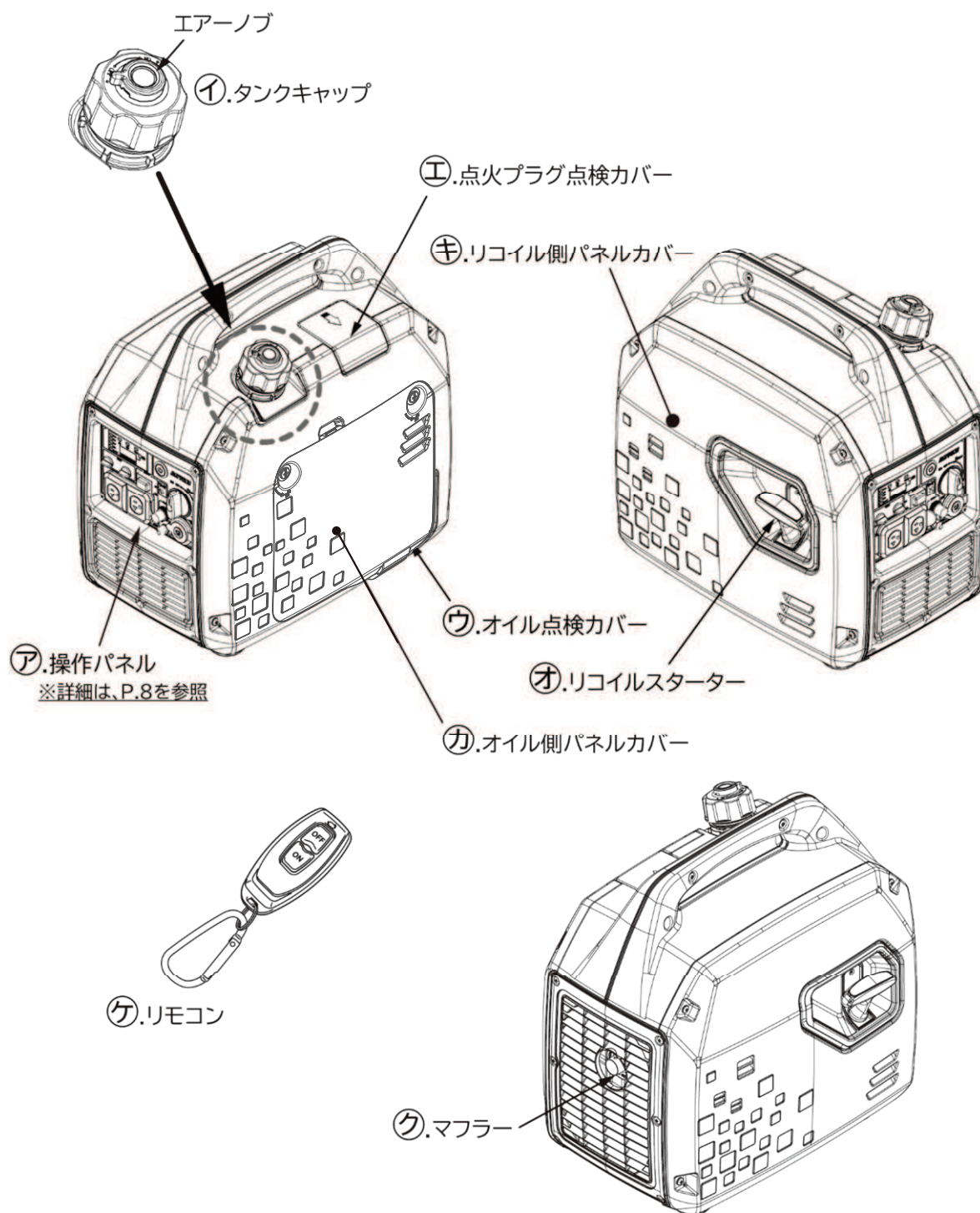
本製品のリモコンに使用されているボタン電池は、テスト時に使用される一時的な電池です。使用中に電池が切れる可能性があります。リモコンのボタンを押してもLEDライトが点灯しない、または反応しない場合は、付属のボタン電池と交換してください。

■ 同梱品リスト ■

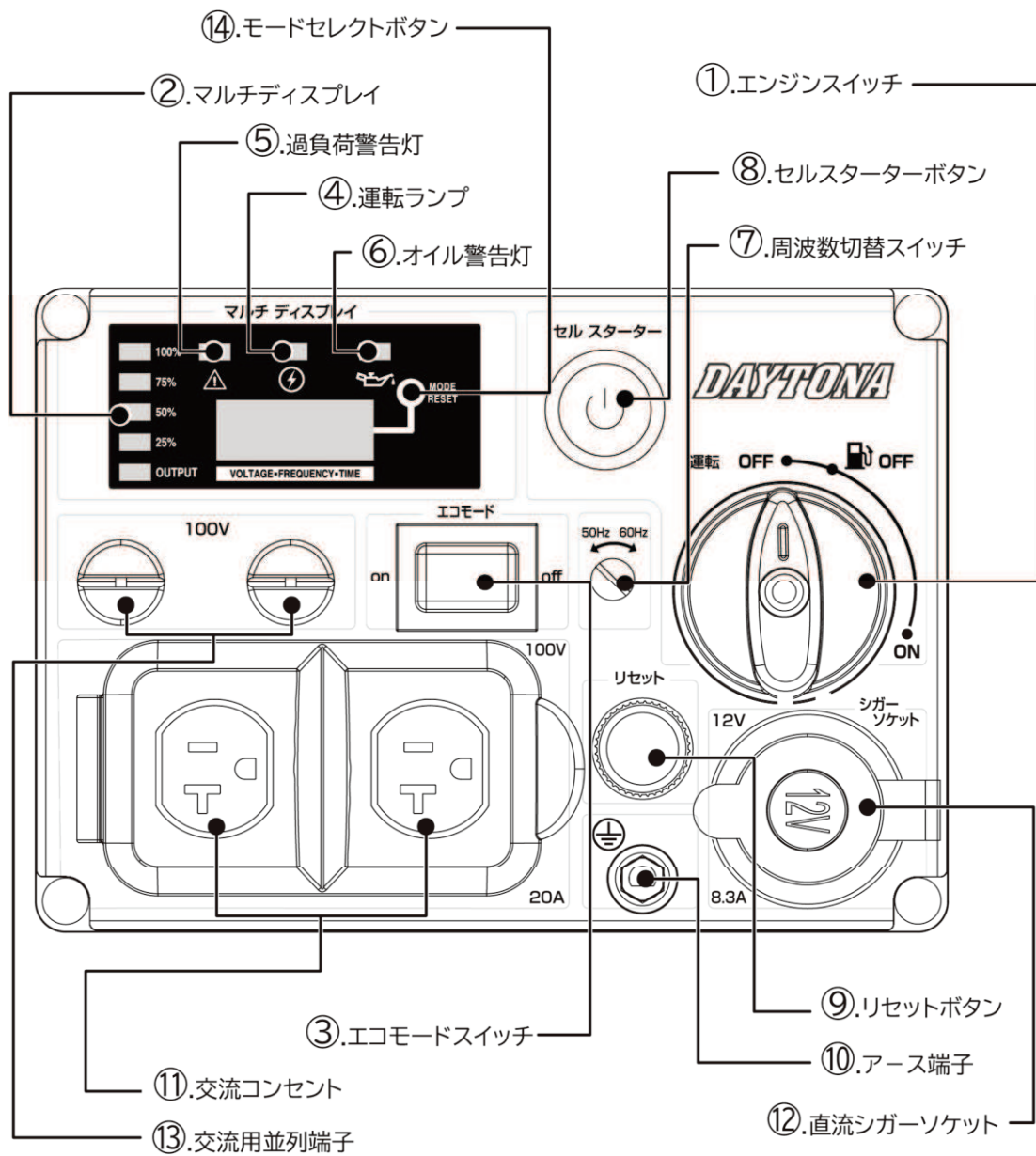


4. 各部の名称と取り扱い

■ 各部の名称 ■



■ 各部の名称 ■



■ 各部の取り扱い ■

①. エンジンスイッチ

- ▶ 本機の運転及び停止のスイッチです。
- ▶ 「燃料 OFF」で、ガソリンを遮断しキャブレター内に残ったガソリンを燃焼させた後、自動的にエンジンを停止させます。(5分程度)
- ▶ 「ON」でエンジン始動及び運転。「OFF」で停止します。



注意

✓ バッテリーが上がってしまうので、**使用しない場合は必ず【OFF】**にしておいてください。

②. マルチディスプレイ

- ▶ 発電機の出力状態や、出力電圧、周波数、動作時間等を表示します。
- ※詳細は、「P16」を参照ください

③. エコモードスイッチ

- ▶ 電気の負荷に応じてエンジン回転数を、適正回転数で運転する切替えスイッチです。
電気負荷が変化すると、必要に応じて発電機のエンジン回転数が自動的に上がったり、下がったりします。
- ▶ エコモード【ON】→接続されている電気機器の負荷に応じ、エンジン回転数を制御し、燃費と騒音が抑制されます。
- ▶ エコモード【OFF】→電気機器の負荷に関係なく、定格エンジン回転数で運転します。



注意

✓ 電力負荷が 1000W 未満の場合のみ、このスイッチが有効になります。

✓ 総負荷が 1000W 以上の電力を供給する場合は、発電機のエンジンをフル回転させる必要があるため、エコモードスイッチは、作動させないでください。

④. 運転ランプ

- ▶ エンジンが始動し、正常に運転されている間、LED が点灯します。

⑤. 過負荷警告灯

- ▶ 接続電気機器への出力が過負荷になると、LED が点灯します。



注意

✓ 内部の回路を保護するため LED が点灯し、本機は発電のみを中止します。

✓ この時、④運転ランプが消えますが、エンジンは止まりません。

要点

◆ もし、過負荷警告灯が点灯した場合は下記の対策を取ってください。

- ・まずは、エンジンを止めてください。
- ・接続している電気器具の消費電力(W)を確認し、定格出力範囲内に減らしてください。
- ・エンジンエア-取入口が、塞がれてないか確認してください。
- ・⑨リセットボタンを押して、回路をリセットします。

⑥. オイル警告灯

- エンジンオイル量が適正值より下回ると、LED が点滅します。



注意

- ✓この際、エンジン保護システムが自動的にエンジンを停止させます。
- ✓また、オイル警告灯が点滅している間は、エンジンを始動することはできません。

要点

- ◆ もし、オイル警告灯が点滅した場合は下記の対策を取ってください。
 - ・P.11 【5.運転操作】の【②.エンジンオイルの給油及び確認】を参照し、オイルを規定量給油します。

⑦. 周波数切替スイッチ

- 使用する電気機器に応じて、周波数(60Hz/50Hz)を切り替えるスイッチです。



注意

- ✓スイッチの切り替え操作は、エンジンを停止してから行ってください。

⑧. セルスターターボタン

- 1秒間のみボタンを押して、エンジンを始動させます。

⑨. リセットボタン

- ⑤過負荷警告灯が点灯し対策後、復帰させる場合にこのボタンを押して出力を再開します。

⑩. アース端子

- 感電防止のために、アース線を取り付ける端子です。
- 使用する電気機器をアースした場合、発電機も必ずアースしてください。

⑪. 交流コンセント

- 交流電気機器を接続するコンセントです。(AC100V 20A)
- (P.15) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

⑫. 直流シガーソケット

- シガーソケットを接続し、直流電気を取り出します。(DC12V 8.3A)
- (P.15) 【5.運転操作】の【・電源の取り出し方】を参照して電源を取り出してください。

⑭. モードセレクトボタン

- マルチディスプレイの表示モードを切り替えるボタンです。

※詳細は、「P.16」を参照ください

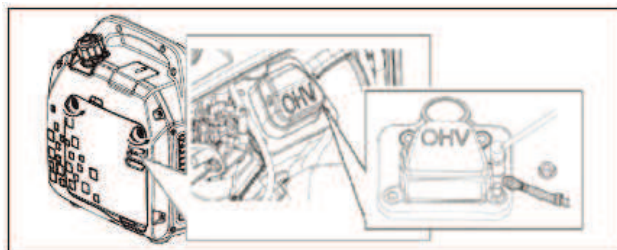
5. 運転操作

● 運転前に

※再度、【1. 安全にお使いいただくために】(P.3)を必ずお確かめの上、ご使用ください。

①. バッテリーアース線の接続

1. 4本のネジを緩め、㊸オイル側パネルカバーを取り外します。
2. 丸端子ハーネスを図の通りに付属の M6 ナットを使用してエンジンヘッドへ接続させ完了です。



②. エンジンオイルの給油及び確認

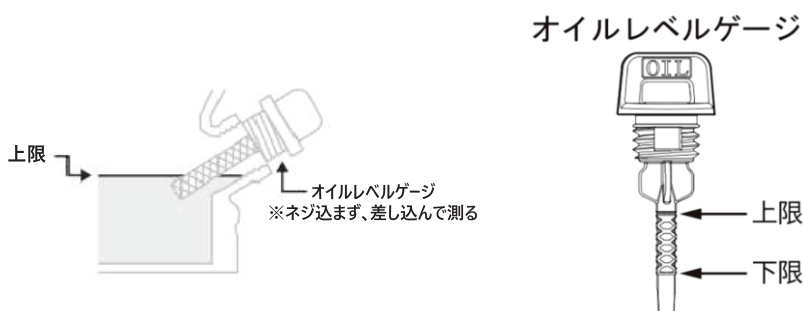
⚠注意 ✓工場出荷時はエンジンオイルが入っていません。購入後は指定オイルを規定量入れてください。

▶エンジンオイルの給油

※あらかじめ、**450cc**の指定オイルを用意してください。

1. ㊸メンテナンスカバーを外します。
2. オイルレベルゲージを外します。
3. 付属品の「オイルジョウゴ」の先端をオイル注入口に差し、予め用意した指定オイルを徐々に注入してください。

⚠注意 ✓オイル量を見る際はレベルゲージをネジ込まず、差し込んでオイル量を測ってください。
 ✓指定オイル：4サイクルガソリンエンジンオイル SE 級以上、SAE 10W-30 または 10W-40
 ✓参考オイル量：0.45L
 ※オイルレベルゲージで上限近くまで達しない場合は 50cc 程足しながら注入してください



要点

- ✓作業は、平らな場所でエンジンを必ず停止した状態で行ってください。
- ✓エンジンを停止した直後は、オイルが熱い状態です。少し冷えた状態で作業を行ってください。

4. 「オイルジョウゴ」を外し、オイルレベルゲージを差して、オイル量を確認します。

要点

- ✓図のオイルレベルゲージの「上限」近くまで有るかを確認します。

5. 給油後、オイルレベルゲージを確実に取付けます。
6. ㊸メンテナンスカバーを元に戻します。

③. 燃料の給油

**注意**

✓ 工場出荷時は燃料が入っていません。購入後はレギュラーガソリンを規定量入れてください。

**警告**

禁止



火気厳禁

- ✓ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所でしないでください。ガソリンは非常に燃えやすく、爆発や火災の危険があります。給油はエンジンを停止させてから行ってください。また、給油中は十分に火気に注意して行ってください。ガソリンからは揮発したガスが常に発生していますので、十分な換気を行ないながら作業をしてください。
- ✓ ガソリンは消防法に適合した容器からこぼさないよう、ゆっくり補給してください。こぼれた場合は布などで完全に拭き取り引火に注意して処分してください。
- ✓ 静電気の放電火花が気化ガソリンに引火し火傷を負うおそれがありますので、身体に帯電した静電気を除去してください。本体の金属部分に触れると静電気を放電することができます。
- ✓ ガソリンは給油限界を超えて補給しないでください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンが漏れ出ることがあります。



実施

- ✓ 燃料補給時に燃料タンク内に水分・雪や氷・ゴミ・ホコリが入らないように注意してください。燃料タンクにそれらが入るとエンジン停止、始動困難など不調の原因となります。

▶燃料の給油

1. ①タンクキャップを外します。
2. 給油口から燃料がこぼれないようにゆっくり規定量を給油してください。
3. 給油が完了したら①タンクキャップを右に一杯に回しカチカチと空回りするまでしっかりと締め付けてください。

**注意**

- ✓ 指定ガソリン：レギュラーガソリン使用のこと。※ハイオクガソリン、混合ガソリン等その他は不可。
- ✓ 給油量　　：約 4.0L（ガス欠状態になった場合の給油量の目安です）

● エンジンの始動

➤ 始動方法は、「リコイルスターター」、「セルスターター(ボタン)」、「セルスターター(リモコン)」の方法があります。

警告



禁止

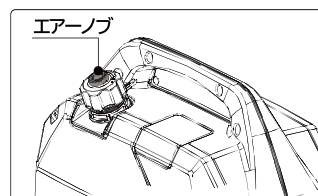


毒物注意

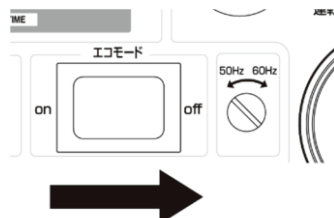
- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用可能な安全な場所かをご確認の上、使用ください。発電機付近に障害物や危険物、燃えやすい物無いか、また建物およびその他の設備から1m 以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。また、キャンプ場、イベント会場等では使用禁止のルールがあるような場所での使用は予めご確認ください。
- ✓ 傾斜地で使用しないでください。平で硬い場所で使用してください。
- ✓ 電気機器を接続した状態でエンジンを始動しないでください。

①. リコイルスターター

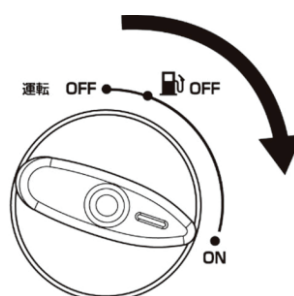
1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ①タンクキャップの「エアノブ」を「ON」の位置にします。



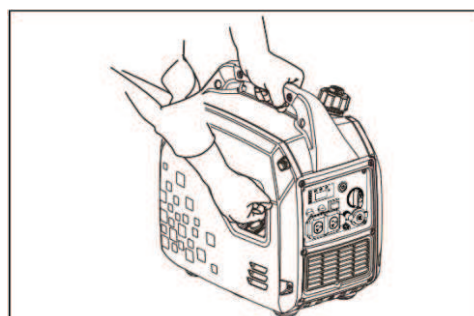
3. ③エコモードスイッチを「OFF」にします。



4. ①エンジンスイッチを「ON」にします。



5. 本機側の安全な部分をしっかり押さえ、
④リコイルスターターを静かに引き、重くなるところで止め、
次に強く引きます。



⚠注意

- ✓ ㊸リコイルスターターは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花がよ
く飛びエンジンがかかりやすくなります。逆にエンジン回転が遅いと火花が飛びにくくなりエンジンが
かからないことがあります。
- ✓ ㊸リコイルスターターを引いたまま、手を離さないでください。㊸リコイルスターターが勢いよく戻り、始
動装置や周りの部品等を破損することがあるので、ご注意ください。
- ✓ エンジン始動中は、㊸リコイルスターターを引かないでください。エンジン本体に悪影響を与えます。

6. 接続機器に応じて、③エコモードスイッチを「ON」にします。

②. セルスターター(ボタン)

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ㊶タンクキャップの「エアノブ」を「ON」の位置にします。
3. ③エコモードスイッチを「OFF」にします。
4. ⑧セルスターターボタンを「1 秒間」のみ押します。
その後自動的にセルモーターが作動し、エンジンが始動します。



③. セルスターター(リモコン)

1. 燃料(ガソリン)が入っているかを確認します。
2. ㊶タンクキャップの「エアノブ」を「ON」の位置にします。
3. ③エコモードスイッチを「OFF」にします。
4. ㊹リモコンの「ON」ボタンを「1 秒間」のみ押します。
その後自動的にセルモーターが作動し、エンジンが始動します。



⚠注意

- ✓ ⑧セルスターターボタンまたは、㊹リモコンの「ON」ボタンは 1 秒以上押し続けしないでください。
- ✓ 1 度の始動でエンジンが作動しなかった場合は、5 度までは自動的に再度セルモーターが始動しエン
ジンを作動させようとします。それでも始動しない場合は、リコイルスターターで始動させてください。
- ✓ この発電機は、「OPD 機能」(Output Power Delayed)が付いており、始動後約 20 秒間は電気
を生成しません。
万一、接続されている機器があっても電力を供給せずに発電機が始動されます。
- ✓ この発電機には、オートチョークが装着しているため、チョークレバーはございません。
- ✓ 発電機を長期保存している場合、バッテリー電圧が弱くなっている可能性があります。その場合は、
リコイルスターターで始動させてください。また、発電機が作動すると自動的に搭載バッテリーへの充
電も開始されます。

● 電源の取り出し方



警告



禁止

- ✓ 電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。本機や本機に接続された電気機器が故障、火災や人身事故の原因となります。
- ✓ 濡れた手で操作、金属物をコンセントに差し込んだりしないでください。感電の恐れがあります。
- ✓ 電気機器の電源が OFF になっていることを確認してから接続してください。



注意

- ✓ 定格出力を超えた状態(過負荷)での使用はしないでください。
- ✓ 使用前に接続するコードの損傷等が無いか確認してください。
- ✓ 使用する電気機器をアースした場合やアース付プラグを使用の際は、発電機側も必ずアースしてください。

▶【交流(AC)電源】

1. エンジンを始動後、④運転ランプが点灯していることを確認する。
2. ⑦周波数切替スイッチを確認し、適正な周波数になっているか確認する。
3. 電気機器の電源が OFF になっていることを確認し、電気機器のコンセントを接続する。
4. 接続後、電気機器の電源を ON にして、ご使用いただけます。

▶【直流(DC)電源】

1. エンジンを始動後、④運転ランプが点灯していることを確認する。
2. 電気機器の電源が OFF になっていることを確認し、⑫直流シガーソケットへ接続する。
3. 接続後、電気機器の電源を ON にして、ご使用いただけます。

● エンジンの停止

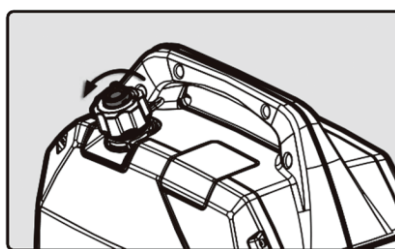
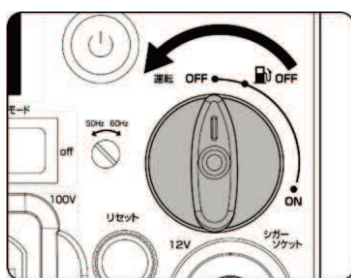
▶エンジンの停止



注意

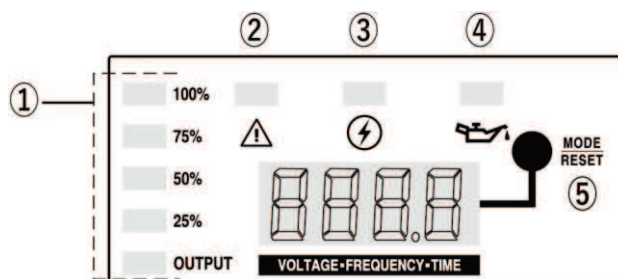
- ✓ エンジン停止の前に、接続されている全ての電気機器を外してください。
- ✓ 電気機器が接続され動作している間は、エンジンを停止しないでください。

1. 発電機から接続されている全ての電気機器を外します。
2. ③エコモードスイッチが「ON」になっている場合は、「OFF」にします。
3. 無負荷状態でエンジンを約 3 分間、運転させます。
4. ①エンジンスイッチを「OFF」にし、エンジンを停止させます。
5. ①タンクキャップの「エアノブ」を「OFF」の位置にして完了です。



● マルチディスプレイについて

- ▶ マルチディスプレイは、発電機の出力行状態や、出力電圧、周波数、動作時間等の情報を表示します。



①. 出力表示

- ▶ 出力が表示され、負荷の状態が%で確認できます。

②. 過負荷警告灯

- ▶ 接続電気機器への出力が過負荷になると、LED が点灯します。

※詳細は、「P9」を参照ください。

③. 運転ランプ

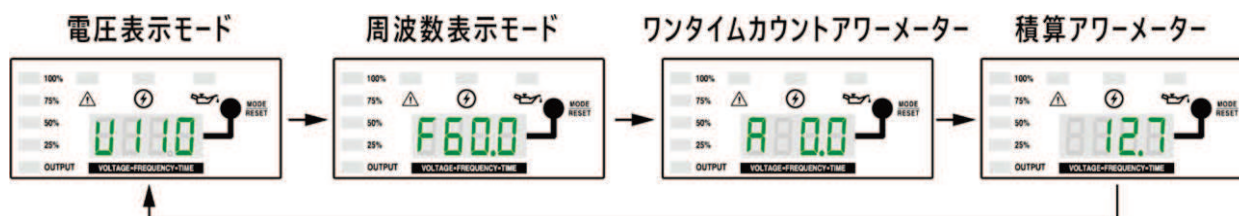
- ▶ エンジンが始動し、正常に運転されている間、LED が点灯します。

④. オイル警告灯

- ▶ エンジンオイル量が適正值より下回ると、LED が点滅します。

⑤. モードセレクトボタン

- ▶ マルチディスプレイの表示モードを切り替えるボタンです。



▶電圧表示モード

- ▶ 出力電圧を表示します。上図のイラストは、「V110」を示します。

▶周波数表示モード

- ▶ 設定周波数を表示します。上図のイラストは、「60Hz(ヘルツ)」を示します。

▶ワンタイムカウントアワーメーター モード

- ▶ 発電機を始動させ OFF にするまでワンタイムのみのアワーメーター。発電機 OFF でリセットされます。

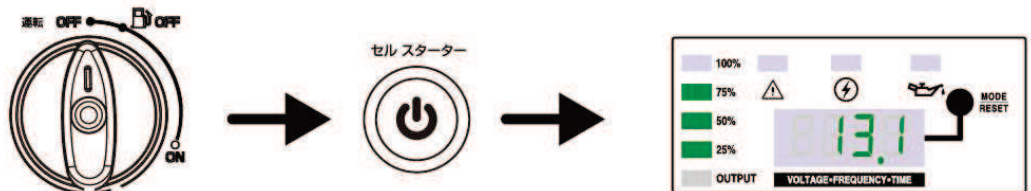
▶積算アワーメーター モード

- ▶ 作動時間を積算した、アワーメーター。リセットは出来ません。

▶バッテリー残電圧表示モード

➤ バッテリーが正常な電圧を確保できているか下記の方法で確認できます。

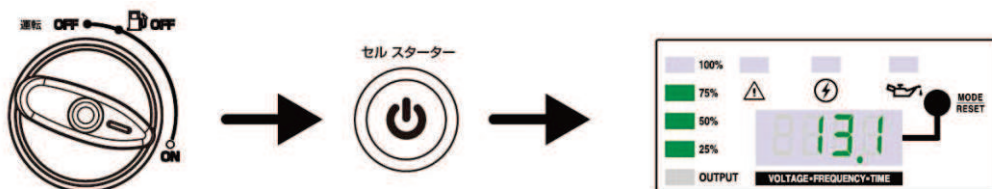
①. エンジンを掛けずに電圧を確認する方法……この場合の電圧は**バッテリー残電圧**を表示します



①エンジンスイッチは OFF ②セルスターターボタンを長押し

③バッテリー電圧が表示されます
 ・この場合、13.1Vを表示しています
 ・セルスターターボタンを離せば消えます

②. エンジン始動時に電圧を確認する方法……この場合の電圧はバッテリーへの**充電電圧**を表示します



①エンジンスイッチは OFF ②セルスターターボタンを押し
 エンジンを始動させます

③エンジン始動直後に、
 バッテリー電圧が表示されます
 ・この場合、13.1Vを表示しています
 ・5 秒間のみ表示され、その後通常表示に戻ります

⚠注意

- ✓ バッテリーの推奨電圧は 12.4V 以上です。それ以下の電圧ではセルモーターが動かない場合があります。その場合は、リコイルを使用してください。
- ✓ リコイルでもエンジンが掛からない場合は、【P36 補足説明】を参照の上、エンジンを掛けてください。

6. 点検・保守・保管



禁止

- ✓ 排気ガスには有毒な成分が含まれています。車内や室内など閉め切った倉庫や車庫の中等の換気の悪い場所や風通しの悪い場所での使用及び点検はしないでください。一酸化炭素中毒等により死亡又は重度の後遺障害の恐れがあります。
- ✓ 使用中、使用後のマフラー部は非常に熱くなっております。マフラー高温時には、マフラーに触れないでください。火傷をしたり衣服を焦がしたりする危険があります。また、高温の時は絶対にガソリンや引火性のあるワックスやクリーナー、塗料などのケミカル製品をマフラー等に垂らしたり吹き付けたりしないでください。火傷や本機の損傷、火災の原因となります。
- ✓ 点検作業を怠ると、重大な事故や故障の原因につながるため、必ず実施してください。



- ✓ 毎回使用前には、始業点検の実施、また定期点検も必ず行ってください。
- ✓ 点検作業の前に、接続されている全ての電気機器を外してから行ってください。
- ✓ 使用中及び点検中に異音、臭い、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。

①. 始業点検

要点

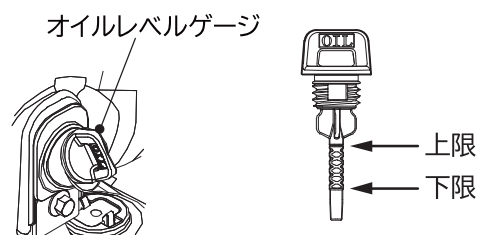
- ◆ 発電機をご使用になる前に必ず始業点検を行ってください。

1. ①タンクキャップを外し、燃料(レギュラーガソリン)が入っているかを目視で確認します。

要点

- ◆ 燃料の給油は、P12 「③.燃料の給油」を参照してください。

2. ⑦メンテナンスカバーを外し、オイルレベルゲージを外し、オイル量を確認します。



要点

- ◆ エンジンオイルの給油は、P11 「②.エンジンオイルの給油及び確認」を参照してください。

②. 保 守(定期点検)

要点

- ◆ いつまでも発電機を快適にお使いいただくためにも、定期点検を実施してください。
- ◆ 下記の定期点検表に基づき、定期点検を実施してください。
- ◆ 過酷な環境下での使用の場合は、点検頻度を増やして実施してください。

点検項目		点検時期 (注1)	始業点検	10時間 または 2ヶ月毎	50時間 または 3ヶ月毎	100時間 または 6ヶ月毎	300時間 または 1年毎
燃料(レギュラーガソリン)	量、漏れ点検		○				
エンジンオイル	点検		○				
	交換			○ 初回のみ		○ 以後	
エアフィルター	点検		○				
	洗浄				○		
点火プラグ	点検・調整					○	
	交換						○
アイドルリング	点検・調整						○
バルブクリアランス	点検・調整						○
低透過性オイルパイプ	点検	※2年毎点検(必要なら交換)					
オイルパイプ	点検	※2年毎点検(必要なら交換)					

(注1).点検時期は表示されている時間毎または、年月毎のどちらか早い方で実施してください。

③. エンジンオイルの交換

⚠注意

- ✓ いつまでも発電機を快適にお使いいただくためにも、定期的なオイル交換を実施してください。オイル交換を怠ると内部部品の寿命を縮め、重大な故障の原因につながるため、必ず実施してください。
- ✓ エンジンオイルの点検及び交換作業は、本体を水平状態で実施してください。
- ✓ エンジン停止直後はエンジンやオイルの温度が高く火傷をする恐れがあります。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。
- ✓ エンジンオイルは本体を使用しなくても自然劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- ✓ オイルレベルゲージは手で確実に締め付けてください。締め付けが不十分だとオイルがにじむ事があります。

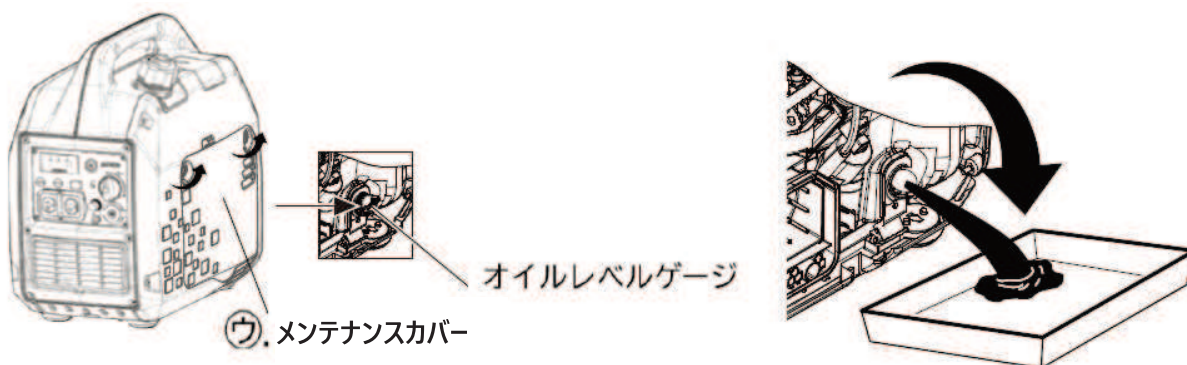


法令違反

- ✓ エンジンオイルを交換後、廃油は地面や排水溝などに捨てず、環境保護のため法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルを購入されたお店にご相談ください。

● エンジンオイルの抜き方

1. 古いエンジンオイルを抜きやすくするために、エンジンを2～3分間始動します。
2. ㊦メンテナンスカバーを外し、オイルレベルゲージを外します。
3. 廃油受け(古いエンジンオイルを受けるための容器)を用意し、発電機本体の近くに置きます。
4. 廃油受けに発電機本体を傾け、オイル注入口から古いエンジンオイルを抜き取ります。
5. 完全に抜き取ったら、エンジンオイルの抜き取りは完了です。



● エンジンオイルの給油

要点

- ◆ エンジンオイルの給油は、P11 「②.エンジンオイルの給油及び確認」を参照してください。

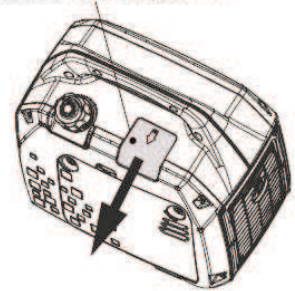
④. 点火プラグの点検と調整

⚠注意

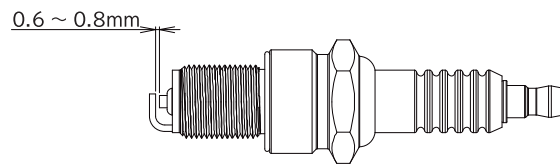
- ✓ 点火プラグは、徐々に劣化するので、定期的な点検を行ってください。
- ✓ 点火プラグが劣化していると、火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。
- ✓ エンジン停止直後はエンジンの温度が高く火傷をする恐れがあります。十分に冷えてから点火プラグ点検作業を行ってください。
- ✓ 下記指定以外の点火プラグを使用しないでください。不調や故障の原因になります。
※指定点火プラグ：NGK / BPR5 または BPR6、Torch / E6RT
- ✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。

1. エンジンを停止させ、十分に冷えていることを確認し、④点火プラグ点検カバーを外します。
2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. 付属のプラグレンチで点火プラグをエンジンから取り外します。
4. 取り外した点火プラグを目視で【焼け具合】、【汚れ】、【プラグギャップ(すき間)】等を確認します。
5. 【焼け具合】は、黒くなっていたり、白くなっている場合は、エアークリーナーを点検してください。正常な場合は、きつね色になっています。
6. 【汚れ】がある場合は、市販のパーツクリーナー等で清掃するか無い場合は、ワイヤブラシ等で清掃してください。

④点火プラグ点検カバー



7. 【プラグギャップ(すき間)】を、下記寸法に調整します。



8. 点検・調整作業が終わったら、点火プラグをエンジンに取付けます。

⚠注意

- ✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。
- ✓ 点火プラグ締め付トルク：21 N/m
- ✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。
- ✓ 点火プラグを強く締め付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

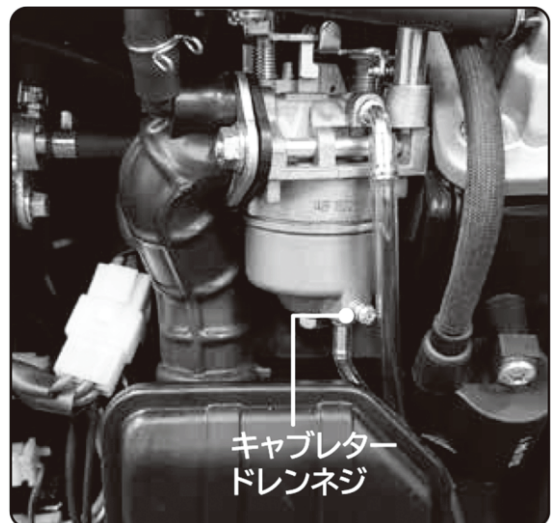
9. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。

10. 最後に、㊸点火プラグ点検カバーを元通りに戻して作業は完了です。

⑤. キャブレター残燃料排出

発電機の使用後および保管前にキャブレターの残燃料を排出してください。残燃料を排出すると、キャブレター内の燃料の停滞によって引き起こされる蓄積や詰まりを防ぐのに役立ちます。

1. 4本のネジを緩め、㊸オイル側パネルカバーを取り外します。
2. ドライバーでキャブレタードレンネジを開き、キャブレター内に溜まったガソリンを排出します。
3. 燃料が排出されたら、ドライバーでドレンネジを締めます。
4. 最後に、㊸オイル側パネルカバーを元通りに戻して作業は完了です。



要点

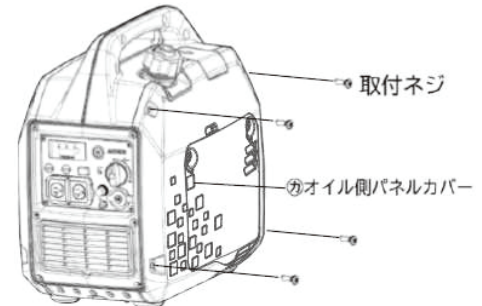
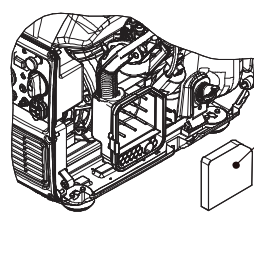
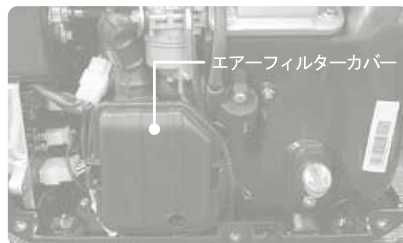
- ✓ 発電機を長期格納する前に、必ずキャブレターの残燃料を空にしてください。

⑥. エアフィルターの清掃

⚠注意

- ✓ エアフィルターを汚れたままで使用すると、エンジンの内部損耗や出力低下をまねくので定期的な清掃を実施してください。
- ✓ エアフィルターの洗浄に、ガソリンは使用しないでください。
- ✓ エアフィルター(スポンジ)は、破れる恐れがあるので、絶対に両手では絞らないでください。

1. エンジンを停止させ、十分に冷えていることを確認し、4本の取付ネジを緩めて、⑦オイル側パネルカバーを外します。
2. エアフィルターカバーを取外し、エアフィルターを取り出します。



3. 取り出したエアフィルターを、きれいな灯油で洗います。

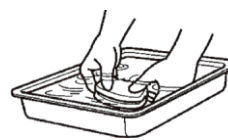
⚠注意

- ✓ エアフィルターの洗浄に、ガソリンは使用しないでください。

きれいな灯油で洗う

きれいな布で包んで
片手で握り絞ります

乾燥させます

エンジンオイルに
浸しますオイルが垂れない
程度に片手で絞ります

4. エアフィルターをきれいな布に包んで、片手で握って絞ります。

⚠注意

- ✓ エアフィルター(スポンジ)は、破れる恐れがあるので、絶対に両手でねじって絞らないでください。

5. 絞ったエアフィルターを乾燥させます。
6. 乾燥させたら、きれいなエンジンオイルに浸します。
7. 浸したオイルがエアフィルターから垂れない程度に、片手で握って取り除いてください。
8. エアフィルターを元通りに戻して、エアフィルターカバーを取付けます。
9. 最後に、⑦オイル側パネルカバーを元通りに戻して作業は完了です。

⑦. 保管(一時保管・長期格納)

✓いつでも使用できるように、月 1 度、20 分程度の試運転をおすすめいたします。長時間放置するとエンジンがかかりにくくなり故障の原因になります。



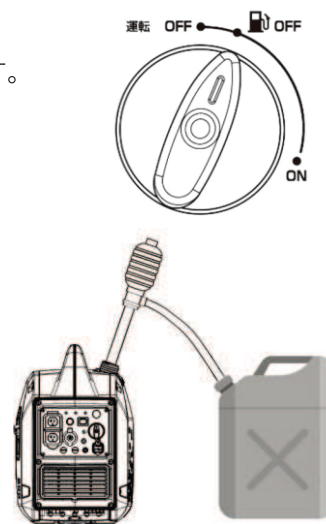
✓【**一時保管**】・・・次の使用が約 30 日以内の場合は、こちらの手順で実施してください。

✓【**長期格納**】・・・次の使用が上記以上の場合は、こちらの手順で実施してください。

✓ガソリンやオイルは自然劣化します。ガソリンは約 30 日に 1 回。オイルは定期点検表に基づき交換作業を実施してください。

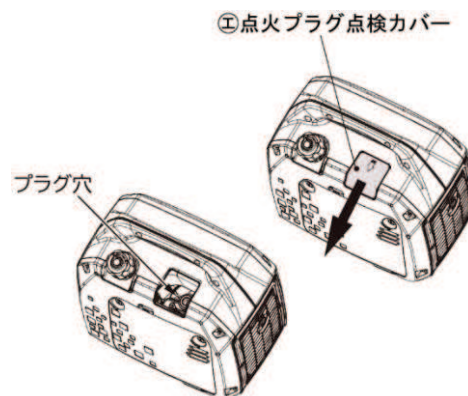
● 一時保管

1. エンジンを始動させ、①エンジンスイッチを「燃料 OFF」の位置にします。
こうすることで、ガソリンタンクからの燃料を遮断し、キャブレター内の燃料を燃焼します。
2. キャブレター内の燃料が無くなるとエンジンは自動的に停止します。(5 分程)
3. ①エンジンスイッチを「OFF」の位置にし、エンジンを冷やします。
4. エンジンが十分に冷えていることを確認し、①タンクキャップを外して、ガソリンタンクに残っているガソリンを抜き取ります。
5. ①タンクキャップをしっかりと締め、エアノブを「OFF」にします。
6. 湿気が少なく、換気のよい室内で保管してください。



● 長期格納

1. 予め【**一時保管**】の内容を実施します。
2. ②点火プラグ点検カバーを外します。
3. 点火プラグキャップを点火プラグより外し、付属のプラグレンチで点火プラグをエンジンから取り外します。
4. 「プラグ穴」から、エンジンオイルを「3～5cc」を給油します。



5. 点火プラグを付ける前に、④リコイルスターターを 3～5 回引いて、オイルを馴染ませます。
6. 点火プラグをエンジンに取付け、プラグキャップを点火プラグにしっかりと取付けます。



✓ 点火プラグを取り付ける際は、最初に手でプラグを 3～4 回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してからプラグレンチで所定のトルクで確実に締め付けてください。

✓ **点火プラグ締め付トルク：21 N/m**

✓ 点火プラグは確実に締め付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。

✓ 点火プラグを強く締め付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

7. ⑤点火プラグ点検カバーを元通りに戻します。
8. 最後に、④リコイルスターターをゆっくりと引いて一番重くなったところで止め、④リコイルスターターを戻します。
9. 各部を清掃して、防錆処理を実施します。
10. 湿気が少なく、換気のよい室内でカバー等をかけ保管してください。

7. 故障診断（故障対応）



- ✓ 修理を依頼する前に、ご自身で以下の点検を行い、故障を大きくしないように処置をし、むやみな分解等を行わず、お買い上げの販売店へご相談ください。
- ✓ よくある故障を下記にまとめましたので、ご確認ください。

故障	原因	対応方法
セルが回らない	バッテリーアース線の未接続	「P11 ①バッテリーアース線の接続」を参照し、バッテリーアース線を接続します
	バッテリーの電圧不足	「P13 ①リコイルスターター」を参照し、リコイルでエンジンを作動させ最低30分間動かし、バッテリーを充電させます
	バッテリー本体の劣化	バッテリー本体が劣化等により充電出来なくなっているため、新品バッテリーと交換してください
バッテリー電圧が有ってもセルが動かない	セルモーターモジュールの不具合	セルモーターモジュールの不具合が考えられますので、お買い上げの販売店へご相談ください
エンジンがかからない または、始動困難	燃料が入っていない	燃料(レギュラーガソリン)を給油します
	エアノブがOFFになっている	④タンクキャップのエアノブを"ON"にする
	点火プラグが湿っている(カブっている)	チョークを引いたままにしていると、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外し、よく乾燥させます
	点火プラグの火花が出ない または火花が弱い	「P20 ④点火プラグの点検と調整」を参照し点検・調整します または、新品プラグと交換してください
	エンジンオイル不足	「⑥オイル警告灯」が点滅している場合は、保護システムが作動し、エンジンがかからないのでエンジンオイルを規定量給油します
電気が取り出せない(出ない)	過負荷警告灯が点灯している	接続している電気器具の消費電力(W)を確認し、定格出力範囲内に減らしてください エンジンエア-取入口が、塞がれてないか確認してください P10 ⑨リセットボタンを押して、回路をリセットします
電気が弱い	使用周波数が適正でない	⑦周波数切替スイッチを正しい周波数に合わせる

何かお困りの際は、下記窓口までお気軽にお問合せください。



お問い合わせ先（ナビダイヤル/有料） **0570-055-819**



インターネット受付窓口

<https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>

●当社営業日のみ受け付けております。受付時間 10:00-17:00（月～金）

※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。

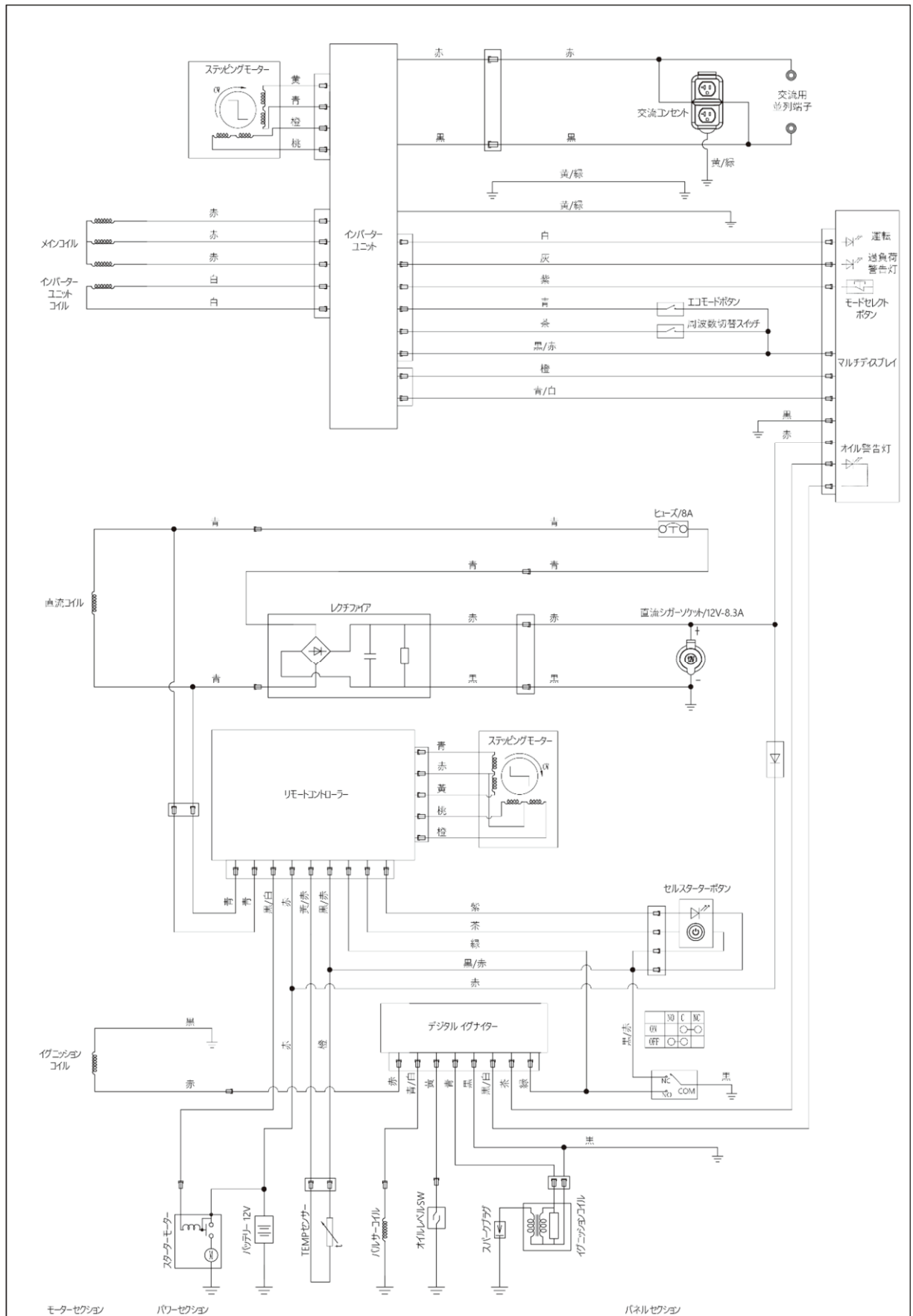


8. 製品諸元表

製 品 諸 元

型 式	DAYGENE1900e	
エ ン ジ ン 型 式	強制空冷4サイクルガソリンOHVエンジン	
総 排 気 量	79cc	
回 転 数	4800rpm	
始 動 方 式	リコイルスターター方式、セルモーター方式	
点 火 方 式	CDI点火方式	
オ イ ル 容 量	450 cc	
燃 料 タ ン ク 容 量	4 ℓ	
点 火 プ ラ グ	NGK BP5H Torch E5T	
本 体 型 式	フルカバーボディ	
全 長	485mm	
全 幅	340mm	
全 高	510mm	
総 重 量	22.7kg (乾燥重量=19.7kg)	
電 圧 調 整 方 式	インバーター方式	
交 流	定 格 出 力	1.9kw
	定 格 電 圧	AC : 100V
	定 格 電 流	AC : 19A
	定 格 周 波 数	50Hz/60Hz
直 流	定 格 電 圧	シガーソケット : 12.0V
	定 格 電 流	シガーソケット : 8.3A
連 続 運 転 時 間	75%負荷時 = 4.0時間 50%負荷時 = 5.7時間 25%負荷時 = 7.9時間	
騒 音 レ ベ ル (7m)	最大66dB(A) 以下	
バ ッ テ リ - 容 量	1.6Ah / 12~13V	
出 力 種 類	AC100V/20A x 2個 シガーソケット(12V/8.3A) x 1個	

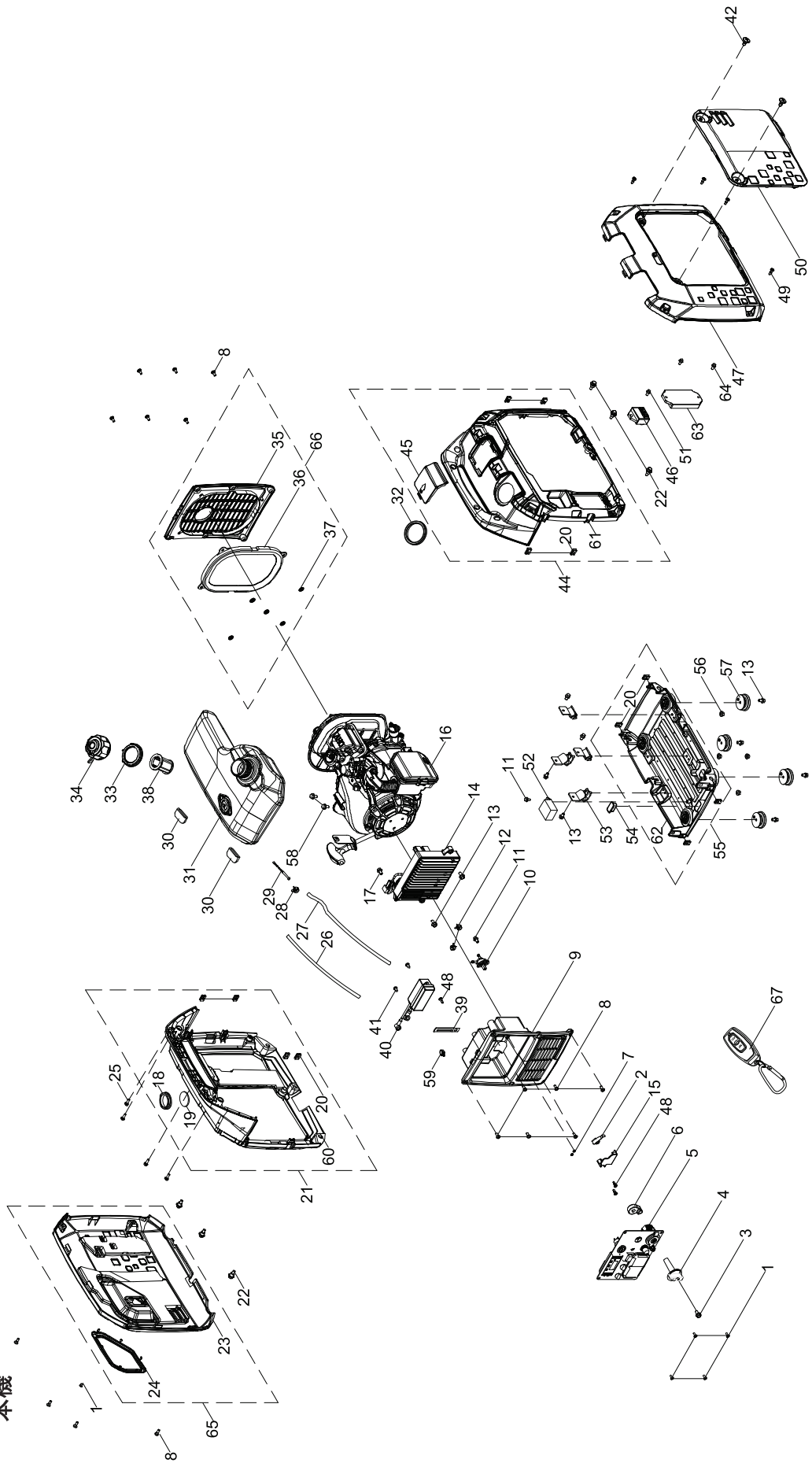
9. 製品回路図



× 毛

10. パーツリスト

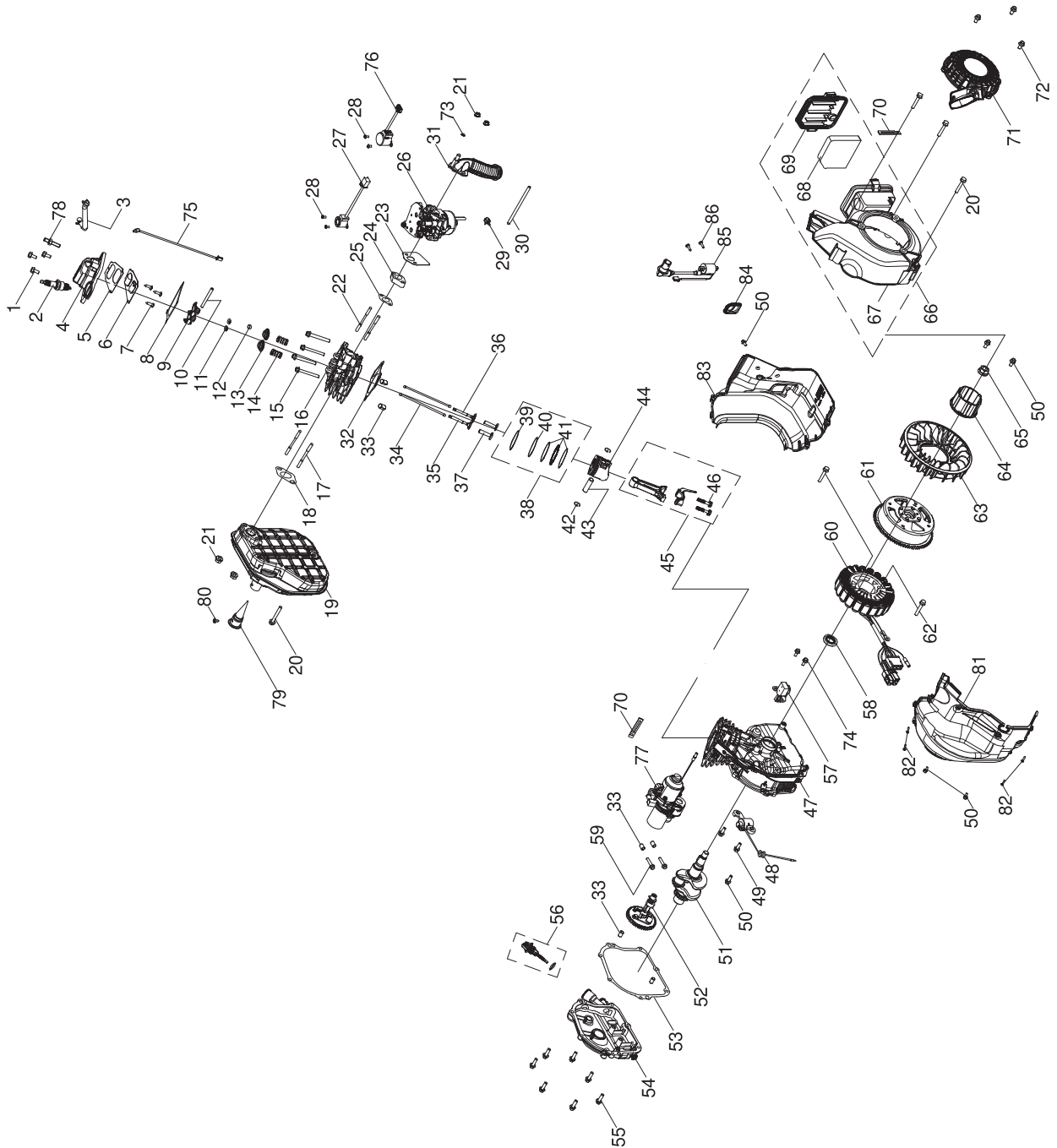
本機



No.	品番	部品名称	使用数 /台
1	55441	スクリュ, M4 x 10	5
2	55504	スプリング	1
3	55505	スクリュ, M4 x 16	1
4	55413	エンジンスイッチノブ	1
5	55506	コントロールパネルASSY	1
6	55507	スイッチブロック	1
7	55447	ベアリングサークリップ, Φ10.8 x Φ6	1
8	55448	ステップボルト	16
9	55508	パネルカバー	1
10	55450	燃料コック	1
11	55451	フランジ付六角ボルト, M6 x 14	2
12	55510	クランプ	2
13	55453	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	10
14	55511	インバーターユニット	1
15	55512	ブロック	1
16	55513	エンジンASSY	1
17	55457	ボルト, M5 x 12	1
18	55636	レンズ, 燃料計	1
19	55637	ラバー, 燃料計	1
20	55460	クランプナット	12
21	55461	フレームASSY, LH (燃料系付)	1
21	55638	フレームASSY, LH (燃料計無)	1
22	55462	ロケーティングボルト	6
23	55516	パネルカバー, LH	1
24	55464	リコイルプロテクションカバー	1
25	55465	スクリュ, M5 x 16	4
26	55466	アウターチューブ	1
27	55467	燃料ホース, 300mm	1
28	55468	クランプ2, Φ9.7 x 8	1
29	55469	燃料ストレーナー	1
30	55470	ラバーパッド	2
31	55973	燃料タンク (フィルター対応)	1
32	55974	ダンピングパッド	1
33	55473	ロックナット	1
34	55474	ロックナット	1
35	55475	タンクキャップ	1
36	55476	マフラーカバー	1
37	55477	シール	5
38	55965	ガソリンフィルター	1
39	55528	クランプ	1
40	55529	バッテリー, 2/1.6Ah	1
41	55530	セルフタッピングスクリュ, ST4.2 x 16	2
42	55966	パネルスクリュ	2
44	55484	フレームASSY, RH	1
45	55485	フレームASSY, RH	1
46	55486	点火プラグ点検カバー	1
47	55487	イグナイター	1
48	55520	セルフタッピングスクリュ, ST4.8 x 10	2
49	55489	ボトムプレート	4
50	55967	メンテナンスカバー	1

No.	品番	部品名称	使用数 /台
51	55491	オイル点検カバー	1
52	55521	レクチファイヤ	1
53	55493	ボトムプレート	4
54	55494	ダンパー	1
55	55495	ラバーサポート	1
56	55496	ボトムプレートASSY	4
57	55497	ナット, M6	4
58	55498	ボルト, M6 x 18	2
59	55499	クリップ	1
60	55523	フレーム, LH (燃料計付)	1
61	55501	フレーム, RH	1
62	55502	ボトムプレート	1
63	55968	レシーバー (2.4GHz)	1
64	55525	ボルト, M6 x 16	2
65	55969	パネルカバー-COMP, LH	1
66	55527	マフラーカバー-ASSY	1
67	55970	リモートコントローラー(2.4GHz)	1

エンジン




No.	品番	部品名称	使用数 /台
1	55605	フランジ付六角ボルト, M6 x 18	3
2	55604	点火プラグ(Torch/E5TorNGK/BP5H)	1
3	55535	ブリーザーホース	1
4	55536	ヘッドカバー-ASSY	1
5	55606	ガスケット, シリンダーカバー	1
6	55607	インナーカバー, ヘッドカバー	1
7	55539	スクリュ, M3 x 6.5	3
8	55540	ガスケット, ヘッドカバー	1
9	55541	ロッカーアームASSY	2
10	55542	シャフト, ロッカーアーム	1
11	55543	コレット, バルブ	2
12	55544	オイルドリッププラグ	1
13	55545	バルブスプリングシート, 182F	2
14	55608	バルブスプリング	2
15	55547	フランジ付六角ボルト, M6 x 50	4
16	55609	シリンダーヘッド	1
17	55549	スタッドボルト, M6 x 72	2
18	55550	マフラーガスケット	1
19	55551	マフラーASSY	1
20	55552	フランジ付六角ボルト, M6 x 60	4
21	55553	フランジ付六角ナット, M6	4
22	55554	スタッドボルト, M6 x 87	2
23	55555	キャブレターガスケット	1
24	55556	インシュレーター	1
25	55557	インシュレーターガスケット	1
26	55610	キャブレターASSY	1
27	55559	ステッピングモーター	1
28	55560	スクリュ, M4 x 6	4
29	55561	クランプ 1, Φ7.5	1
30	55562	燃料ホース, D4 x 8 x 120L	1
31	55563	インテークマニホールド	1
32	55565	シリンダーヘッドガスケット	1
33	55566	ダウエルピン, Φ8 x 12	6
34	55567	プッシュロッド	2
35	55568	バルブ, EX	1
36	55611	バルブ, IN	1
37	55570	バルブリフター	2
38	55571	ピストンリングセット	1
39	55612	ピストンリング, 1ST	1
40	55613	ピストンリング, 2ND	1
41	55614	オイルリング	1
42	55572	サークリップ	2

No.	品番	部品名称	使用数 /台
43	55573	ピストンピン	1
44	55615	ピストン	1
45	55575	コンロッドASSY	1
46	55616	ボルト, コンロッド	2
47	55617	クランクケース	1
48	55577	センサー, オイルレベル	1
49	55578	フランジ付六角ボルト, M6 x 16	2
50	55579	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	3
51	55580	クランクシャフト	1
52	55618	カムシャフト	1
53	55582	ガスケット, クランクケースカバー	1
54	55583	クランクケースカバー	1
55	55584	フランジ付六角ボルト, M6 x 20	7
56	55585	オイルレベルゲージASSY	1
57	55586	トリガー	1
58	55587	オイルシール, $\Phi 20 \times \Phi 32 \times 6$	1
59	55619	フランジ付六角ボルト, M6 x 30	2
60	55620	ステーターコイルASSY	1
61	55621	オルタネーター	1
62	55589	フランジ付六角ボルト, M6 x 32	2
63	55590	クーリングファン	1
64	55591	スタータープーリー	1
65	55592	フランジ付六角ナット, M12 x 12.5P	1
66	55593	ファンカバーASSY	1
67	55594	ファンカバー	1
68	55595	エアフィルター	1
69	55596	エアフィルターカバー	1
70	55597	ワイヤクリップ B	1
71	55598	リコイルスターターASSY	1
72	55622	フランジ付六角ボルト, M6 x 14	3
73	55564	クランプ	1
74	55623	フランジ付六角ボルト, M6 x 12	2
75	55624	TEMPセンサー	1
76	55625	ステッピングモーター, チョーク	1
77	55626	セルモーターASSY	1
78	55627	スタッドボルト, M6 x 18	1
79	55479	スパークアレスタASSY	1
80	55478	セルフタッピングスクリュー, ST4.2 x 9.5	1
81	55458	フロントエアガイド	1
82	55459	セルフタッピングスクリュー, ST4.2 x 25	4
83	55480	リアエアガイド	1
84	55481	オイルシール	1
85	55517	イグニッションコイル	1
86	55483	セルフタッピングスクリュー, ST4.8 x 20	2

株式会社 **デイトナ**
東証スタンダード上場
<https://www.daytona.co.jp>
〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮4805

転載 本取扱説明書の内容の一部、
禁止 または全ての無断転載を禁止

何かお困りの際は、下記窓口までお気軽にお問合せください。

 お問い合わせ先(ナビダイヤル) **0570-055-819**

 インターネット受付窓口 <https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>

◆当社営業日のみ受け付けております。受付時間10:00-17:00(月~金)
※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。



● リコイルスターターによる始動 補足説明

【セルスターター及びバッテリーについて】

- ▶この発電機はセルモーターとオートチョークを作動させる為にバッテリーを搭載してます。
- ▶このバッテリー充電はエンジン作動後開始し、過充電にならないよう充電量を制御しつつ、満充電になると充電回路を遮断します。
- ▶アース端子を接続後は、バッテリーが自然放電しますので、満充電時でも約3ヶ月で劣化する可能性があります。
- ▶また、メインスイッチの切り忘れで、約1ヶ月で劣化します。定期的にエンジンを始動させバッテリーを充電してください。

【バッテリー上がり時の対応】

- ▶バッテリーがあがっている場合は、必ずリコイルでエンジンを始動させてください。
- ▶約20分のエンジン作動でセルモーター3回作動分の充電は出来ます。約3時間の連続エンジン作動で満充電になります。
- ▶なお、バッテリーが上がっているとオートチョークが作動しませんので、リコイルでのエンジン始動が困難な場合があります。（特に寒冷時）その場合は、下記の手順でチョークを手動操作してください。


- ①. オイル側パネルカバー(エンジンオイル点検口側)のネジ4ヶ所を緩めて外します。
- ②. キャブレター上部のエアークリーナー側にチョークバルブがあります。手動でチョークを動かしてからリコイルでエンジンを始動させます。



◎ 詳細についてはこちらのQRコードから動画がご覧できます。



※もしこの方法で、エンジンが始動できない場合及び、バッテリーが充電されない場合は下記窓口までお気軽にお問合せください。

 お問い合わせ先(ナビダイヤル) **0570-055-819**

 インターネット受付窓口 <https://www.daytona.co.jp/contact/form.php>

◎当社営業日のみ受け付けております。受付時間10:00-17:00(月~金)
※祝祭日、当社研修等の臨時休業日を除きます。

